

# はたはた

千葉 良一 書

# Vol. 9

八峰町関東ふるさと会 会報

2018年9月発行



岩館の子ゴキ灯台

## 第5回HATAA-1グランプリで 八峰町が三連覇を飾る

八峰町関東ふるさと会会長 神馬 信一

会員並びに八峰町の皆様方には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃よりふるさと会の活動に格別のご厚誼を受け賜りお礼申し上げます。

さて、八峰町は近年首都圏で特産品の消費拡大を目的とした物産販売を毎年数回行っており、この催しにふるさと会の会員がお手伝いする機会が増えて毎回来しみにしています。

各イベントの中でも一番気合が入るのは、「HATAA-1グランプリ」を決定する企画です。今回(平成29年)で5回目となりますが、八峰町のハタハタ入り(オス1匹・メス1匹)のしよつたる鍋は、初代優勝、2回目準優勝、3回目から今回まで三連覇を飾り、鳥取県と秋田県内には敵なしとなりました。

前回まで会場は築地市場の近くでしたから、来場者や客層も期待できました。しかし、今回の会場は東京お台場にあるシンボルプロムナード公園の「石と光の広場」。昨年12月2日・3日の両日、秋田県と鳥取県が主催する食の祭典「ハタハタフェスティバル」と称して、両県の特産であるハタハタの食を首都圏でPRするために、両県の事業者など計36ブースが出店して味を競いました。初めての場所での入場者数・客層も読めない状況と、常勝八峰町として期待されていることで、秋田県庁の担当の方々から2日間プレッシャーを感じながらのイベントでした。因みに、食材は全て八峰町からの持ち

込み。八森沖で水揚げされたハタハタを漁連で前処理して前日迄に宅配して貰い、ブランド化された同町の白神ネギと松岡食品の鍋用豆腐を、秋田県漁連北部統括支所女性部ひより会で製造したしよつたる(魚醬)で煮込んだ「オール八峰町」の食にこだわった一杯です。

鍋の仕込み方も前回までの反省を踏まえて工夫しました。前回まで各ブースの機材は最大ガスコンロ4個と鍋4個。汁用は2個で途切れなく提供できませんが、問題はハタハタを煮込むのにオス用鍋1個、メス用鍋1個を別々に使用していたこと。次のハタハタを煮込むのに20〜30分かかるため、この間に行列が出来てお客さんに迷惑をかけていました。今回は、餅焼き網で真ん中を仕切りオスとメス同時に煮込んだ大鍋を2個駆使することで、途切れることなく提供でき大成功でした。スタッフは町職員2名とふるさと会員5名で延べ14名が、昼食も忘れるぐらいの忙しさに達成感一杯でした。

遅い昼食と後片付けを済まして発表を待っていた表彰式では、八峰町が最後に呼ばれて見事に三連覇達成には感無量でした。秋田県の県魚に制定されているハタハタは古くから民謡の秋田音頭で「八森ハタハタ」と歌われているように八森の面目を保つことが出来たことで、秋田県庁の関係者や八峰町に対して「ハタハタは秋田の県魚」であることを一層印象づけたフェスティバルでした。



# ふるさと会員の皆様、はじめまして

## 八峰町長 森田 新一郎



ふるさと会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

私は、今年の4月23日から、加藤前町長からバトンを受け継ぎ八峰町長を務めております森田新一郎と申します。昭和26年8月生まれの66歳です。

峰浜村立水沢小学校、沢目中学校、能代高校、東北大学工学部を卒業し、秋田県庁に行政職として入庁いたしました。

秋田県庁では、福祉医療関係が一番長く、次いで県の総合計画策定や少子化対策などの企画関係、中小企業振興や観光物産などの産業関係の仕事を中心に取り組み、平成24年3月に秋田地域振興局長で定年退職いたしました。

定年退職後は、脳研センターとリハセン（リハビリテーション・精神医療センター）を統合した地方独立行政法人秋田県立病院機構の理事として2年間勤務し、そのかたわら、現在も続けていますが能代高校同窓会長や八峰町社会福祉協議会会長の役職も努めてまいりました。

趣味は、将棋（四段）、囲碁（五段格）、カラオケ、ゴルフ、海釣り（磯と船の両方）、野菜づくりなど多趣味が趣味のよきな人間ですが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、この度の八峰町長選挙には、今後も続いていく長期間にわたる人口減少や極端な少子化や高齢化により、自分が住んでいる地域社会や基幹産業である農

林漁業が立ちいかなくなるかもしれないという強い危機感から出馬を決意しました。選挙の結果は、論理的にはあり得ないはずの新人の無投票当選ということで八峰町の2代目町長を務めることになりました。

「人にも自分にも常に誠実に公正でオープンな町政」を進めることを基本理念とし、米や野菜や果物を育てている広くて平らな土地をフル活用し、米依存農業からの脱却などにより「土地生産性」を高めること、世界自然遺産との関わりや日本ジオパーク、砂浜や岩浜、強い風やきれいな水、菌床シイタケやハタハタ、アワビや海藻など、八峰町を元気にする資源（宝物）をもっと磨いてフル活用し、これらの「付加価値」を高めること、町民の皆様と将来的な課題や取り組んでいく方向を共有し「我が事」の問題として「参画」していただき、「オール八峰」で現場主義を大切にしていくことを基本方針にしながら、元氣な八峰町の実現を目指してまいります。

初登庁から2ヶ月半ほど過ぎましたが、私のことをよく知らないままに私を信頼し、私に期待をしてくれた多くの方々にできるだけ多く足を運びお目にかかることを最優先として活動してまいりました。これまで、地域づくりや福祉関係、農林漁業や商工関係、観光やスポーツ関係などの総会等への出席回数は約50回を数え

ています。

まだまだ日々の仕事に追われているという状況ですが、今後、町民の皆様にご満足していただけるような結果を残せるよう力の限り努力してまいりますので、ふるさと会員の皆様にも格別のご理解とご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。11月の総会には、ふるさと八峰町から大人数で参加することとして

## 副町長

### 日沼 一之

### 立石在住



5月臨時議会において承認していただき、副町長に任命されました日沼一之です。

約40年の消防人生を退職後、一般企業の社会福祉施設に5年間勤めその後は同企業グループの顧問として在籍しておりました。

平成27年から社会福祉協議会理事としての活動で会長を務めている町長とご縁もあり、八峰町を元気にしようという強い意欲と熱い思いに心を打たれ引き受ける決意をいたしました。

地域への恩返しも兼ねてこれからの4年間、町長を助け職員が個々の能力を発揮できるように最善を尽くし、元氣なまちづくりのための公約実現に向け尽力して参ります。

町民の皆様はじめ関係各位におかれましては、今まで以上の御指導御協力を賜りますようお願い申し上げます。

ており、皆様とお会いできる日を今から楽しみにしています。

結びに、創立10周年という大きな節目を迎えられました「八峰町関東ふるさと会」のますますのご発展と、会員の皆様のご健勝と今後のご活躍をご祈念申し上げます、私から皆様への初めてのあいさつといたします。

## 教育長

### 川尻 茂樹

### 水沢下在住



八峰町教育長に任命していただいた川尻茂樹と申します。

私は、昨年3月まで小中学校等の教職員を務めてきましたが、八峰町での勤務は、峰浜村時代の峰浜中学校教頭としての3年間でした。その節は、保護者や地域の方々に大変お世話になりました。また、昨年度は八峰町コミュニティスクールの推進役として、学校・家庭・地域をつなぐ役割に取り組んできました。

八峰町の教育行政については、これまで千葉良一前教育長を中心に素晴らしい取り組みをしており、町の教育への期待が大きいことを感じていました。

今後ともこれまでの取り組みを引き継ぎ、より充実させ、成果をあげられるよう、子供たちのため、町のため尽力したいと思いますので、よろしくお願ひします。

※副町長、教育長のご挨拶については八峰町広報から引用させていただきます。

# ふるさとがくれたもの

八峰町議会議長

門脇 直樹



八峰町関東ふるさと会会員の皆様、この度、八峰町議会議長に就任させていただきました門脇でございます。

私は旧八森町滝の間に生まれ、目の前が海、そして父が漁師という環境でありましたので、まさに日本海という大自然の産湯に浸かって育って参りました。毎日、日が沈むまで海に入っては、アワビやサザエを獲り、アブラッコを釣り、畑のスイカやマクワウリを冷やして食べた幼い日の遠い記憶は、かけがえのない思い出であります。

雄大で美しい日本海も、35年前の5月26日に発生した、日本海中部地震では大津波となつて町を襲い、たくさん被害をもたらしたことは、今も鮮明に記憶に残っておりますが、今、夕日がまるでジュウという音を立てて沈む景色は、毎日、私の心をリセットさせるに十分すぎるほどの感動を与えてくれます。

ふるさとの自然はもちろん、思い出の味といえば、春の山菜に始まり、季節が移り変わること実に実をつける、安心で安全な多くの野菜たち、そして秋には新米や名産の梨も、遠方にいる家族への季節の贈り物として、大いに活躍しております。そんな中、昨年のハタハタ漁の近年においても著しい不漁には、とても残念である以上に、大きな不安を抱かずにはいられません。昨冬は、故郷の味ハタハタを楽しむに待たせてくれて

た全国の人たちも、口にはできなかった方も多かったのではないのでしょうか。40年前のような不漁に陥るのだろうか。また禁漁しなければならぬのだろうか。そんな漠然とした不安に包まれたものです。さて、皆さんご承知の通り、室生犀星の叙情小曲集小景異情(二)に「ふるさと」は遠きにありておもふもの」という詩があります。若い頃数年だけ都会に暮らした私は、まさに、振り返る暇もないほど、ふるさとはない、都会での煌びやかな街の景色を楽しんだものです。しかしながら、年を重ね、この詩のもつ本来の意味、ふるさとを思うという、もの悲しさにも似た望郷の念を、私は関東ふるさと会で強く感じてきました。遠く離れた地でこれまでの月日を、頑張り続けて、今、尚、都会に生きるたくましい仲間たちを誇りに思うのです。故郷とは不思議なもの。特別な何かをしてもらったことなどありません。けれども自分の幼い頃の記憶の全てが、この町で、景色で、人で作られているという、当たり前のその一点で、その後の何十年もの時間を生きる勇気を与えてくれました。

高齢化著しく、子供たちの声が珍しくなりつつある我が町ではございますが、これからも、物理的な距離を超えて、ふるさと会の皆様方にもご助言、ご指導をいただきながら、愛する故郷の発展のため、町議会も行政と一体となり、努力し

て参る覚悟でございます。最後に、会員の皆様のますますのご健康

勝と、関東ふるさと会のご繁栄をご祈念申し上げます。

## 八峰町議会議員11名 町民の代表としてがんばります



①須藤正人②岩館③4回④八峰町監査委員⑤ふるさと会の皆さんが大手を振って帰って来られる町づくりをしてまいります。



①奈良聡子②中浜③1回④総務民生委員⑤住民主体の活気あるコミュニティづくり・観光振興・新規地場産業育成。



①皆川鉄也②水沢③3回④副議長⑤秋田こまちを栽培しながら地域活動を中心に元気ですががんばっております。



①芦崎達美②石川③4回④総務民生委員⑤役員の方々にはお世話になりました。今後も会員一同八峰町を応援いたします。



①水木壽保②大沢③2回④総務民生委員長⑤農業後継者育成、豊かな水と自然を後世に引き継ぐ森林保全、皆で支え合う地域づくり。

①議員氏名  
②出身地区  
③当選回数  
④主担当  
⑤力点を置く分野



①芹田正嗣②岩子③1回④議会運営委員長⑤合併後のふるさと会への参加は初めてです。お会いできることを楽しみにしています。



①山本優人②立石③3回④教産建委員長⑤期待を込めてくれている人々を裏切ることとは恥とて、仕事も人生も続けたいと思う。



①見上政子②茂浦③3回④教産建委員⑤教育・福祉に力点を置いて、建設産業分野を勉強中です。



①菊地薫②滝の間③3回④教産建委員⑤美しい自然に育まれた八峰町を、次世代に引き継ぐための大事なことからである。



①腰山良悦②岩館③3回④教産建副委員長⑤誰もが誇れる町づくりにがんばります。

①笠原吉範②カッチキ台③2回④総務民生副委員長⑤移住・定住や空き家対策など、人口の社会減抑制に務めます。

ふるさとを詠む

八峰町立峰浜小学校

校長 松田 武

星空をはめて着替える

こまおどり

昨年度の一茶まつり全国小中学生俳句大会で特選に選ばれた四年 柴田凜久さんの俳句です。学校としても大変うれしくなる俳句です。

それは、本校の子どもたちが地域とつながり、地域の方々が子どもたちの成長に豊かさを生み出していることが分かる俳句だからです。凜久さんは、石川地区に伝わる駒踊りに地域の方と一緒に取り組んでいます。一生懸命練習し、お盆の時に駒踊りを立派に披露できました。そして、地域の方からたくさん褒められました。その時の成就感、達成感から、見上げた星空が一層美しく感じられたのでしょう。大満足で着替える凜久さんの姿が見えてくる俳句なのです。

本校は、旧埴川小と旧水沢小の伝統を引き継ぎ、「俳句の学校」を目指しています。本校の俳句づくりは、長泉寺の柳川大亀住職のお力添えなしでは成り立ちません。子どもたち全員が自分の「俳句手帳」を持ち、いつでも俳句が浮かんだら書き込んでいきます。俳句手帳の一頁目には、次のことが載っています。

《感動を一句にまとめる》  
は……はっとおどろいたなあ！（発見）  
い……いいな！

い……いいな！  
い……いいな！  
く……くすくすと、笑っちゃうね。（観察）  
まるで○○○みただいなあ！（連想）

これを句作の手助けにして書きためた

俳句手帳を、柳川住職が一人ひとり丁寧に見て助言してくださいます。お陰様で数々の大会で入賞しています。幾つか紹介します。

○伊藤園お〜いお茶新俳句大賞  
平成二八年年度大賞

からすの目ばくもうつして  
とんでった

平成二九年度優秀賞  
まだなにもしやべつてくれない  
ふきのとう

○NHK全国俳句大会  
平成二八年度特選

雨がふり

あじさい海鳴りごとさいて  
平成一九年度佳作  
塩をふりスイカにかぶりつくへいわ

俳句づくりは、本校の特徴的な教育活動です。もちろん、子どもたちの感性や表現力を鍛えることをねらっています。そして、もう一つ大きなねらいがあります。それは、郷土への愛着心を醸成し、教育目標に掲げる「ふるさとに生きる子どもの育成」を実現することです。ふるさとの四季、ふるさとの素材を題材にしての俳句づくりは、教育目標に直結した大切な教育活動です。



高峰山で一句

地域の方々と共に力を合わせて子どもたちにふるさとのよさをいっばい感じさせ、俳句づくりを通してふるさとを愛する心を育んでいきたいと思ひます。

ふるさと八峰町 明日への希望

「おがる八峰しいたけ プロジェクト」開始！

八峰町農林振興課 林業係

工藤 猛

当町における菌床しいたけ栽培は、平成五年に五戸の農家が栽培を始めたのをきっかけに、平成一〇年度に有限会社峰浜培養が経営する菌床ホダ製造工場が完成し、以来年々栽培農家の生産量・販売額が増え、販売額がピーク時の平成二〇年には栽培農家二〇戸、生産量八二五ト・販売額八億六〇〇万円の実績となりました。

その後、価格の低迷、奇形果の発生、生産量の減少等により農家数、販売額は減少し、平成二六年度時点で栽培農家一〇戸、生産量は六〇〇ト、販売額は六億二五〇〇万円となりました。それでも、しいたけの販売額は、町内の農業における主要品目のうち第二位となっており、町では菌床しいたけ栽培を主要産業の一つと位置付け、

平成二七年度より「秋田県市町村未来づくり協働プログラム」を活用し、人口減少対策として町内に雇用の場を確保するため、「おがる八峰しいたけプロジェクト」を立ち上げました。

これは、菌床しいたけ産業を強化することで町内に雇用の場を創出し、若い世代の町外流出を防ぎ、町外からしいたけ栽培を始めたい移住者を受け入れ、加工食品の開発や若者主体による活力あるまちづくりが促進さ

れる《おがる》という想いを込めて計画したものです。このプロジェクトにより、平成二八〜二九年度で峰浜培養の施設を整備し、年間のホダ生産量をそれまでの二〇〇万個から三〇〇万個に拡大することで生産希望者へのホダの安定供給と販売額の増大、雇用の拡大を推進し、平成三一年度には、しいたけの販売額を一〇億円にしようという目標を立てています。

課題としては、菌床しいたけ栽培農家の高齢化、規模縮小による生産量の減少、競争の激化による単価の減少等がありますが、生産量を増やすためには特に新規に菌床しいたけ栽培を開始する人を増やすことが重要です。

新規就農者を増やすために、このプロジェクトにより研修者受け入れのための施設も整備しており、平成三〇年度は二名の方が町外から移住して研修を行っていましたが、町の新規就農者支援の制度を利用して、町からも補助金による支援を行っています。町では、来年以降から菌床しいたけ栽培農家として独立する予定で、その人が独立後は新たな研修生を募集し、新規就農者の増加を図っていきます。

平成二九年度末時点の菌床しいたけ栽培農家数は一一戸、生産量は七六四ト・販売額は八億一七〇〇万円でしたが、峰浜培養のホダ増産体制が本格稼働する平成三〇年度以降は、菌床しいたけ栽培農家の生産体制の強化を早急に行う必要があります。目標達成に向けて《おがる》

品質が良いものは主に関東へ出荷  
いけますよ。丸とって取り組んでいきます。



品質が良いものは主に関東へ出荷

# ふるさとづくりまっく 二題

佐藤 了(秋田県秋田市在住)  
(埴川・外林出身)



はじめに

皆さん、こんにちは。私は、埴川地区の最小集落、外林の農家の4男に生まれ、18歳で北海道に渡って農業経済・地域計画を学び、研究者として関東等で20年、秋田に戻って大学教員17年、退職後4年余、郷里離れて半世紀を超えました。

ここに、私が日頃から誇らしいと思っている「ふるさとまっく 二題」を書かせて頂けること、心より感謝申し上げます。

「もうかる農業」のこと

「もうかる農業」とは、最近、どこかで言い出した農村所得倍増のことではなく、35年も前、一九八三(昭五八)年に村長の故田村一郎氏が提唱された旧峰浜村の農業振興計画運動のことです。

当時、三〇代前半の私は、茨城県つくば市にあった農水省研究所の農業計画部におりました。お声がけ頂き、「いざ峰浜！」と私の恩師が代表の専門家グループに加えてもらいました。

いわゆる地域の計画づくりにはお役所仕事が多いのですが、この計画運動はまったく違いました。言い出したのが村長です。それから進める責任は村にあります。それを極力、村民の参加や参画のもとで進め、役場や農協、普及所などの機関はそのサポート役に徹しようとしたのです。このような「対話を重視するやり方」は、こんにち、住民主人公の進め方として知

られますが、当時は、全国を見回しても農村部ではほとんどなく、秋田県では初めてのケースだったと思います。

さらに、そのキモとなる計画づくりの中心に若者たちを据えました。最も良いのは全員で対話を進めることですが、数千人の村とはいえ、それは難しいので、計画の事務局を作って対話の核になるつばにし、そこに農業者や各機関、専門家の若手を結集し、計画づくりの活動を合宿や視察を含めて一緒にやることにしました。これは、たとえば二宮尊徳が人材育成に使った「芋こじ」のやり方に似て、参加者が同じ目的の下に擦れ合うことで余計な皮が取れて洗練され、自信を深めて、チームの仕事に質的な飛躍を起し、ひいては真に信頼できる志ある人を育てていく、人をみかく陶治手法です。いままも、企業や諸外国などでも類似の考え方が重視されますが、当ても、おとなしなかった若手農業者が「俺がもうけてみせる！」若手農協職員も「ちゃんと売るぞ！」など目の色を変えていくのが実感でき、実際にも成果にあらわれました。

その全容は、村民100名以上が執筆した『農業に生きる』(全戸配布、全468頁、一九八四年)や『峰浜村誌』



2016年ブナ植え21回目に全国各地から石川郷中神社前に集まった「もうかる農業応援研究者」メンバー

(一九九五年)から推察できますが、農業経営の複合化で「野菜総合産地」をめざして前進し、メロンやソバなどで農水大臣賞の複数受賞者を産み、石川郷中の天皇杯受賞の基礎を築き、旧十文字町など他地域が取組むモデルにもなりました。また、その若手たちがその後メキメキと力を付け、各界に欠かせない人材に成長していったことも、傍で目撃してきた私としては、ぜひ付け加えておきたいと思

います。

「海と川と空の塾\*」のこと

「海と川と空の塾」は、一九九三年に白神山が屋久島とともにユネスコの世界自然遺産に日本で初登録されて2年後の95年に、田村氏が村長を退いたことを機に開かれました。その意図は、この地域が「美しい白神の景観と同時に、きれいな水とそこで生産される食糧とに目を向けるべき」という「地域おこしの基盤づくり」にありました。また、塾名を「海」から始めたのは、「白神山は海までも含むもの」という旧八森町の工藤

金悦氏の言に強く

共鳴したためでした。それ以来、「白神の恵みを未来に」と次世代・次々世代の幸せを希いながら、97年に

発足した白神ネイチャー協会とともに、地道な自然貯金の活動が続けられてきました。私は、秋田で

教員になってほぼ毎年、学生たちと伺い、お世話になってきました。白神続きの山からみる故郷の景観は、海・空・川・林・田畑・民家等の列島風景の諸要素をコンパクトに収め、「水や大気の循環あればこそいのちの循環もある」ことを連想させるものでした。

白神山地は、東本州で最も古く海から隆起した最北辺の高地にあり、寒さに極強の酵母菌や乳酸菌などの遺伝資源を豊かに眠らせ、世界にも稀な広大なブナ帯原生林を擁する『活きた自然博物館』です。この世界の『教科書』に加えて注目すべきは、その山ろくに住む人たちの暮らしぶりです。それが「留山」やハタハタの漁獲制限など自然の摂理をしつかり守り、八方(峰)の自然の恵みで飯寿司やだまこもち、『なんばんべつちよ』などの食文化をよく育て、老若男女一人一人がお互いを大切にユーモアたっぷりに暮らすなどというものならば、すでに誰もがあこがれる「桃源郷の入口」に到達しているというべきではないでしょうか。

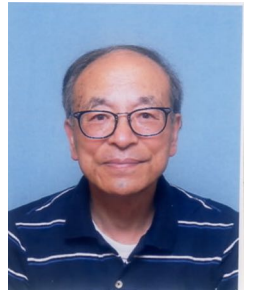
おわりに

今後、これまで培ってきた「産業の力」と「自然を守る力」さらには「人を大切にする力」にいつそう磨きをかけ、この地域の魅力を引き出して日本中、世界中の人たちと心を通わせ、持続可能な地域の姿を作り出していつてくれることを切に希っています。

\*同塾は22年間に延べ5000人強で約5畝に約1万4千本のブナを植樹し、今年2月に解散されました。佐々木正憲代表はじめ皆様の、長年の未来への無私無償の投資行動、ご尽力に深く感謝します。

# 沢目中学卒業同期生のつながり

金谷 正(神奈川県横浜市在住)  
(水沢出身)



昭和37年「第15期」卒業から早56年余り過ぎました。当時は沢目神社を裏手にして3クラス120余名で部活動のバスケットボール、勉学と楽しい3年間でした。体育館にテストの成績表が貼られたり、各部から寄せ集められての秋田市でのリレー大会準優勝、国体旗リレー継走等思い出が浮かんでき

ます。それぞれ集団就職、高校進学と全国各地へと別れました。能代工業高校機械科を卒業し、当時の夜行急行列車「津軽」で上京。上野駅到着時の人の多さにビックリ。勤務地は神奈川県大船で60名近い仲間。新築寮で食事も美味しく残業続きで苦しくても楽しい青春でした。

そして37年ぶり、能代平安閣で3クラス合同同期会。恩師も来て下さり50歳過ぎ、それはもう懐かしく、夜通し会話が続きました。関東方面では今も30名余りと連絡を取り合っています。2年前、盛岡で同期会を行っています。秋田地区からは20名ほどが新幹線で、秋田地区からは貸し切りバスで30名ほどが合流。楽しんで



## 平成29年ふるさと会にて

昨年、関東ふるさと会での同期会、遠くは静岡からの参加もあり皆さん元気で何よりでした。隣席の八森出身のふるさと会北郷副会長さんから同期の小浜寿彦さんの近況などお聞きして大いに盛り上がりました。そして今年正月にその小浜さんと何と50数年ぶりの再会となり、当時の思い出話に胸一杯でした。小浜さんは峰浜地区で診療医として長年活躍され、今も横浜で現役医師です。

ふるさと会に参加する度思い出すのは、今は亡き兄「扶」が旧峰浜村収入役時代にふるさと会発足に向け走り回っていた頃が目につかびます。八峰町には沢山の同期生が居り、特に老人ホーム理事長で八峰町代表監査委員も務めている名畑吉男さん。「道の駅」副会長でシイタケ栽培をしている鈴木末春さんが活躍して居り頼もしい限りです。

私は今、パートの仕事をしながら秋田弁「んだー、んだー」の声を発しながら元気をもらい、同期の顔を思い出しております

# 研究調査のためベトナム全土を回って

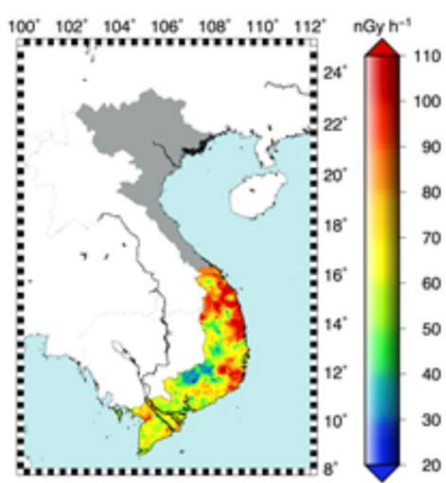
福士 政広(茨城県筑西市在住)  
(八森出身)



昭和49年の3月に東京に出てはや44年が経ちました。ふるさと八森に帰省する機会が少なく寂しさを感じております。現在、首都大学東京で放射線に関する研究をしております。先の大震災での福島第一原発事故時にはマスコミに引っぱられ、寝る間もない忙しさでした。現在も福島第一原発周辺で研究を継続しております。今は落ち着きを取り戻した感があります

今取り組んでいる研究はベトナム全土の放射線線量分布図の作成作業です。そのため、放射線測定器を持ってベトナム全土を限なく歩き回っています。山間部の調査に入ると昭和30年代から40年代の子供の頃の原風景を実感することができふと子供の頃の八森を思い浮かべ、胸にじゅんと込み上げてくる感があります。発展は沿海部より始まり、山間部が後回しになることを実感できました。また、ベトナム戦争で勝利したはずの北より南ベトナム地域が経済的に豊かで発展していることに奇異な感じを受けました。けっこう山奥にも分け入るのですが、野生動物をほとんど見ることがないことにも驚きました。八峰町では熊や猿などの野生動物の被害が出て困っていると、ふるさと会で町長が述べていました。日本の方が自然豊ではないかと再認識しました。

実は、地元民に話を伺うと野生動物は捕まえて食料にするか膏薬の原料とする



そう、保護区以外では野生動物に遭遇することはまずないということでした。今年の夏でベトナム全土の調査を終了します。途中経過(左の写真)を提示します。旧南ベトナムの領域ですが、赤い領域は福島第一原発事故後の関東北部の放射線量とほぼ同じ線量です。この地域はウラン鉱脈が確認されている地域でもあるため、他の地域と比べて線量が高くなっています。また、南部のメコンデルタ地帯はおおた低線量域と考えておりましたが、大河ゆえ、上流からの鉱物の堆積層があり、ところどころに高線量域が見られます。定年まであと二年半ほどになりましたが、昨年からは調査のためインド南部のチェンナイ地区(インド大陸の南端域)に足を延ばしております

## 私のボクシング人生

### 出会い・決断・そして感謝

武石 敦（千葉県市原市在住）

（橋台出身）



私は無類の野球少年でした。にもかかわらず46年もの間ボクシングと関わることになりました。皆さんはスポーツの世界で、「世紀の一戦」と言えばどんな試合を思い浮かべるでしょうか。相撲の柏鵬戦、阪神・巨人の天覧試合、ドーハの悲劇（サッカー）など。私は、迷わずモハメッド・アリ対ジョー・フレイジャー戦です。この戦いを観てその魅力に取りつかれた私は、ボクシングにのめり込む人生となった最初の決断をしました。一九七一年十二月、中学3年生の冬でした。当時、能代市内にボクシング部がある高校は無く、ジムもありません。担任の大高先生に「東京で就職して働きながらボクシングをやりたい」と伝えました。すると先生は、「秋田工高でボクシングのインターハイ王者になった教え子がいる。高校でやる選択肢もある」と諭してくれました。先生の薦めもあり、秋田工に進学しボクシングを始めます。しかし、思い描いたようにはなりません。あつという間に不振の高校時代が過ぎました。就職か進学か、ボクシングはあきらめきれない！高校の監督に相談したところ、三井化学（株）を紹介されました。ボクシング部があり、秋田工の先輩も大勢いました。一九七五年四月に入社。ここで偉大な指導者に出会ったのです！東京五輪のバンタム級メダリスト桜井孝雄さんを育てた名トレーナー広川秀雄先生で

す。この出会いこそが、私のボクシング人生を大きく変えることになりました。先生のボクシングは「打たせずに打つ」「相手の死角から打つ」スタイルで、私のような下手くそなボクサーを、僅か1年でモントリオール五輪最終選考会（青森・一九七六年）に出るまでに成長させてくれました。一九八六年まで指導して頂き、ソウル・アジア大会最終選考会（沖縄・一九八六年）には、選手兼監督で参加。これが最後の試合となりました。その後、47歳までの17年間、指導者として千葉県の監督を務めました。同県はボクシングが盛んで、「習志野高校」を筆頭に、全国優勝者を輩出した高校が5校もあります。環境が整ったボクシングジムも数多く存在し、私のような未熟な監督でも、全国優勝者を沢山出すことができました。現在は、千葉県の副理事長を経て、市原市の副会長です。人生を左右する節目には、必ずと言って良いほど、貴重なアドバイスをくださる方に出会い、人生をどう考えよう進むかの決断に大きな影響を与えてくれました。お世話になった方々へ「感謝」の気持ちを持ち続け、受けたご恩の一部でもお返しできたらと考えています。監督と言えは聞こえは良いものの、「家族の犠牲」無しには成立しません。家内には苦労の掛けどうしです。最後に、最大の功労者に「有難う」の言葉を贈ります。

## 八峰町での伸びやかな原体験

後藤直也（東京都荒川区在住）

（横間台出身）



私は八峰町で18歳まで過ごし、大学で関東に来てから20年が経ってしまいました。時が経つのは早いもので、既に人生の半分以上を関東で暮らしています。現在の自宅は東京都荒川区にあり、夫婦共働きで、小学3年生になる息子は、平日は学校と学童、休日は卓球クラブの特訓などで忙しい毎日を送っています。住めば都と言われるように、こちらの生活にも居心地良さを感じていますが、それでも時々、気が晴れない事があります。最近では休日に息子が友達と遊んでいるのを見て、そのような心持ちになりました。自宅は細い道路の両脇に家が建ち並び、いわゆる木造住宅密集地域にありますが、近くには公園や商店街があり、子供達は伸び伸びと遊んでいるように見受けられます。では何が気にかかってしまうのか、それを探るべくこの度は「子供の遊び」を通して、私が八峰町で過ごした日々を思い返してみたいと思います。私が小学生だった30年前、八峰町で一体何をしていたのかというと、最も印象的な遊びは食料の捕獲でした。夏は海に潜り、何かしらの貝を取ったり、秋は漁港で小アジを釣ったり。家に持って帰ると、だいたい夜の食卓に並んだのを覚えています。捕獲できない冬はそこら辺の坂道に雪でジャンプ台を作り、ソリでひたすら飛んで見せ、春は雪溶けの町を自転車で走り回り、海岸へ辿り着いた漂流

物を漁ったりしました。また向かいの堀にチョークで絵を描き、それを目掛けてキャッチボールをしたり、地域全体を使って缶蹴りをしたりと。通行中の車を止めてしまう事もしばしば、近所の家の裏庭に踏み込む事も日常茶飯事だったように思います。今考えると失礼な事も多く、この場を借りてお詫び致しますが、子供にとつては町の全てが遊び場で、境界なんて存在しないようなものでした。本能的で自由に町や自然と戯れる事が遊びであつて、そこに伸びやかな少年時代があつたように思います。そう思い返すと、今の環境が子供にとつては実に窮屈なものに映り、それが時に心に引っかかってしまうのでしょうか。息子に同じような体験をさせられない事にもどかしさを感じる一方で、八峰町の豊かな自然と人々の温かさが、我々の成長を支えてくれた事に感謝の気持ちがこみ上げてきます。時代が違うので同じ事はできないかもしれませんが、それでも季節的な遊びができる八峰町は、子を持つ親には憧れの地として映っています。私は建築設計を本業としていますが、最近はまだづくりに関わる機会が増えました。まちと人の関係が問われる現代では、八峰町で育った18年が私の大きな財産となっています。これからも八峰町出身者である事を誇りに持って、子育てに、仕事に邁進していきたいと思えます。

# 楽しかった同期会

中澤 徳子 (神奈川県藤沢市在住)  
(八森出身 旧姓 佐藤)



昨年の6月25・26日、八森中十五期生の同期会に参加いたしました。毎年六月に開催される関東在住の同期会も三十三回目を迎え、今回は久しぶりの一泊旅行に男性六名、女性四名が参加し、「伊勢志摩わたかの温泉と伊勢両参り」一泊二日のバス旅行でした。

一日目は朝からあいにくの雨、少し天候が心配されましたが、夫婦岩へ到着する頃には雨もほとんど上がり、夫婦岩、二見興玉神社をお参りし、記念写真を撮ったりして楽しく過ごしました。その後、渡鹿野島へ船で渡り、わたかの温泉にゆつ



わたかの温泉のホテル前にて

くりつかり、バスでの疲れをとりました。夕食は宴会場にて懐石料理、手ごね寿司の実演を見学しながらグループで飲食。二次会は男子の部屋で十二時過ぎまで語りました。中学時代の思い出は数知れず、共通の話題が次から次へと出て、何年経っても変わらない姿にほっといたしました。

翌日は昨日の雨が嘘のように晴れ上がり、一路伊勢神宮を目指してバスに乗り、伊勢神宮内宮、おかげ横丁、外宮を散策します。

バスは内宮に到着。宇治橋の手前の大きな鳥居をくぐる前に立ち止まって一礼し、五十鈴川手洗場で心身を清めてお参り、参道を歩く時は右側通行が原則、真ん中は神様が通る道とされています。外宮は左側通行です。

パワースポットと言われているだけあって、千古の森に囲まれた参道を樹齢を刻んだ大木を見上げ、玉砂利を踏みしめながら歩くこと数分、石の階段を上がって神様の前へ、二拝二拍一拝で拝礼し、各別宮を参拝し内宮に別れ、おかげ横丁、おほらい町で昼食、お土産など求めました。その後バスにて外宮へ向かい、両参りをすませ一路東京へ。

毎年幹事さん達のおかげで同期会が開催され、同期生とお会いできることに感謝し、次回は誰が参加するのだろうかとかとわくわくしながら、いつまでも「ぬかもり会」が続くことを願っています。

## 大人も子供もワクワク！ 秘密基地完成！ 泊まれる 八峰町橋台在住 鈴木了



私は今年の3月まで町の地域おこし協力隊として、移住と空き家対策に取り組みしてきました。協力隊の任期中、私には頼りになる仲間が出来、その皆さんの力を借り、任期満了後の4月から八峰町に秘密基地作りを進めました。

この度、工事と検査を終え、ようやく7月28日にオープンとなりました。

今回、私が作った基地は、貸切で泊まれる秘密基地『CRANDS(克蘭ズ)』です。海と山に囲まれ、八峰町らしい環境にあります。

さらに、山本合名会社の山本友文社長に、この基地でしか飲むことができない限定酒を400本つくっていただきました。

宿泊料金は一人一泊5000円で、二人目から3000円、12月からは一律5000円未就学児は無料です。最大10名まで宿泊可能です。尚、料理の提供はありません。



土間リビングとウッドデッキ。室内にいなながらキャンプ気分を味わうことができる。土間はペット可。予約はホームページか電話にて。  
<http://crands-akita.com>  
(電話:0185-74-7170 鈴木)

ん。パーベキューを含む調理道具は揃っていますので、自炊するが、近くの飲食店をご利用ください。工事資金の半分をクラウドファンディングという、ネットを通じて資金調達をする仕組みを活用し、174組の支援者から287万円を集めました。支援のお返しとして、宿泊券や限定酒の先行予約などの特典があります。

この基地には全国から人がやってきます。魅力ある場所を作ると八峰町という田舎にも人はやってきます。このような小さな取り組みの積み重ねが、地域活性化に繋がっていくのです。皆さんが故郷に来るきっかけになれば嬉しいです。

## 広報『はっぽう』でみる 八峰町のイベント

広報『はっぽう』のお申し込みは  
八峰町役場企画財政課まで  
電話:0185-76-4603  
FAX:0185-76-2113  
年間購読2,000円(毎月1回発行)



17年10月 はっぽう”んめもの”まつり



17年8月 首都圏児童の教育留学



お出かけください！

# 首都圏で行われる八峰町の催し物案内

横浜弘明寺

## 八峰白神特産品フェア & 移住・定住PR／ふるさと納税PR

期日：平成30年9月28日(金)～9月30日(日)  
 10:00～16:00  
 場所：横浜市弘明寺(ぐみょうじ)商店街  
 京急弘明寺駅下車、徒歩3分  
 市営地下鉄弘明寺駅下車、徒歩0分  
 内容：果物、乾物などの試食・販売  
 移住・定住PRとふるさと納税PR



弘明寺商店街での特産品販売(昨年)

## 秋田の食と観光の祭典 in代々木公園

期日：平成31年1月12日(土)～1月13日(日)  
 10:00～17:00  
 場所：東京代々木公園イベント広場  
 JR原宿駅下車、徒歩10分  
 内容：秋田県各地の郷土料理や観光PRなど  
 八峰町はしよつる鍋などを予定



会場(代々木公園イベント広場)への順路

# 首都圏秋田県人会連合会行事案内

### ◆第57回芸能大会

期日：平成30年10月8日(月祝)10:00～16:30  
 会場：文京区役所文京シビックセンター(小ホール)  
 東京メトロ南北線、丸ノ内線「後楽園駅」下車、徒歩1分  
 内容：民謡、歌謡、舞踊などの披露

文化部イベントの申込先

八峰町関東ふるさと会副会長 麻木(あさき)  
 電話：03-3859-3660  
 ※芸能大会は入場無料、申込不要

### ◆平成30年度文化部イベント

#### 原 荘介！クラシックギター奏者のひき語り

期日：平成30年11月26日(月)16:00～17:00  
 会場：アルカディア市ヶ谷 6F 霧島の間  
 会費：1,000円  
 奏者：原 荘介  
 懇親会(希望者のみ)：演奏会終了後、同会場で  
 別途会費：6,000円

原 荘介プロフィール

本名、小笠原荘介。1940年生まれ。秋田県大館市出身。ギタリスト。日本クラシカルギターひき語り協会会長、NPO法人日本子守歌協会常務理事など役職多数。東海汽船勤務を経て1967年にギタリストとして独立。以後、“クラシック・ギターひき語り”を指導するかたわら、国内はもとより、ベルギー・ブリュッセルを中心に海外でも活発に音楽活動を行う。



18年4月 きのご植菌体験教室



18年1月 白瀑神社どんと祭り



17年11月 田舎暮らし体験ツアー

# 第9回総会・懇親会スナップ

2017年11月19日(日) 於アルカディア市ヶ谷

紙面の制約上、掲載写真が限られてしまいます。写真は他にもあります。  
当会ホームページをご覧ください。 [八峰町ふるさと会](#) で検索  
ふるさと会ホームページ・メニュー → ふるさと会について → 総会写真アルバム



八峰町章



芦崎議長乾杯発声



加藤町長挨拶



神馬会長挨拶



受付準備OK



お盆は雄島花火大会へ来てけれー



物産販売準備中



ビュッフェ方式の料理



おらほの館、白神八峰商工会による物産販売 早い者勝ちで売り切れゴメン



四世代での参加でピース



やはり、きりたんぼは大人気です



1年振りの再会で気分も最高



懐かしい話にお酒も進みます



ふるさとの銘酒「白瀑」で乾杯



笑顔でポーズ



ちょっぴり緊張ぎみ(?)でポーズ



今年も多くの仲間が参加してくれました



抽選会で会長賞ゲット!



神馬和夫さん熱唱



「ほっと奏でいる」メンバーによる爽やかな演奏

四季の語らい、  
くつろぎのひととき。



<http://www.arcadia-jp.org>

BANQUET 宴会・会議    ACCOMMODATION 宿泊    RESTAURANT レストラン

JR線・地下鉄(有楽町線・新宿線・南北線) 市ヶ谷駅 徒歩2分

## アルカディア市ヶ谷 私学会館

宴会予約直通 **03-6685-0540** 宿泊予約直通 **03-6685-0541**  
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25 TEL 03-3261-9921(代表)

秋田を応援 特別割引特典

# 5%OFF!



●下記の店舗でご利用いただけます。  
●ご精算時にレジにご提示ください。ご清算後のご提示は無効となります。

秋田ふるさと館

Tel 03-3214-2670

東京交通会館1F  
東京都千代田区有楽町2-10-1

●書籍や送料など、商品以外のもは対象外  
●友の会、他の割引との併用不可



あきた美彩館

Tel 03-5447-1010

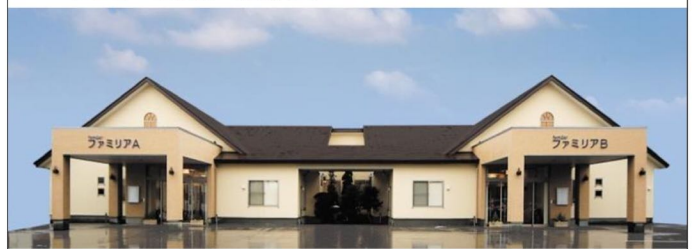
ウイング高輪WEST-III 1階  
東京都港区高輪4丁目10-8

●酒類、書籍や送料は対象外  
●ダイニングでのランチは対象外  
●イベント時は使用不可 ●他の割引との併用不可



虹のホール クオーレ  
のしろ みたね ふたつ

家族葬 famiAr  
ハウス ファミリア



JA葬祭「みどりの会」入会金10,000円でいつまでも安心を

TEL.0185-54-3004  
TEL.0185-54-3004  
TEL.0185-54-3004

## NPO法人 白神ネイチャー協会

白神ネイチャー協会の活動内容、入会申込等につきましては、下記までご連絡ください。

### 会員及びボランティア参加者募集

世界遺産に登録された白神山地周辺部でブナの森づくり活動を通して、白神山地世界自然遺産地域の保全を確かなものとし、また、ブナの森づくりを行うことによって、白神の森から良質な水供給を図り、地域のシンボルであるハタハタ等の魚類の産卵場「海の森」の再生につなげます。

ブナ苗の里親を募集しています！！  
白神山地 植えようブナを、育てようあなたの心

白神ネイチャー協会事務局

■ TEL : 0185-70-4211 ■ FAX : 0185-70-4214  
■ URL <http://www.shirakami.or.jp/~asna/index.html>

## 小物農機レンタル!

(レンタル機につきましては、1日以上とさせていただきます。)

背負動噴霧器	1日3,000円	2台	満切機	乗用、ほか	1日5,000円	2台	
動力散布機	粉と粒	1日3,000円	2台	管理機	耕幅500mm	1日3,500円	3台
エンジンポンプ	φ25mm	1日2,000円	3台	高速洗浄機	エンジン付	1日3,500円	1台
刈払機	背負・肩掛	1日3,500円	5台	発電機	100V、交流12A	1日3,500円	1台
チェーンソー	中 型	1日3,500円	3台	ウイングモア	φ700mm	1日4,500円	1台
ハウス用オーガー	φ35mm	1日3,500円	1台	スプレッダー	手 押	1日2,000円	1台

農家のパートナー 小物農機・販売サービス **AV アシザキ NOUKI**  
〒018-2504 山本郡八峰町峰浜石川字外林33-21 TEL・FAX 0185-76-2884

病院からもらった処方箋の事など、お薬のことなら専門の薬剤師が丁寧に説明いたします。



LINUS PHARMACY

## ライナス薬局

TEL.0185 - 70-4160

FAX. 0185-70-4170 八峰町八森字古屋敷13-6

月～土 / 朝8:00～夜7:00  
休日 / 日・祝日

秋田料理 **酒香童子** 鶏味噌焼 **かしわ物** 奥舟

東京都墨田区  
東向島2-30-11-1F  
TEL: 03-3619-1676

〒131-0032  
東京都墨田区東向島2-11-21  
でんわ 03-3612-4129

白神山地の天然湧水仕込だけで  
酒造りを行なう全国で唯一の蔵元

**白瀑**

八峰町八森字八森269  
TEL/0185-77-2311 FAX/0185-77-2312

— 途絶えなかった訳がある —

**伝承千年**

0120-0221170 FAX 0185-77-3601  
<http://www.suzuki-suisan.co.jp/>

米の国・秋田が育んだ **秋田名産**

**はなはな** **鮎**

低温熟成発酵 秋田(株)鈴木水産 SUZUKI-SUISAN

麹を使わず、お米と人参・生姜でじっくり  
低温熟成発酵させた鈴木水産謹製の飯鮎です。

ふるさとの味と香り、おいしさそのまま贈ります。

秋田名物 **きりたんぼセット**

10月上旬から  
2月下旬まで  
発送いたします。

地方発送  
承ります

申し込みご予約は  
TEL. 0185-76-2529 FAX. 0185-76-3156  
〒018-2507  
秋田県山本郡八峰町峰浜田中宇大土面17 **レストラン 峰**  
ホームページ <http://www.shirakami.or.jp/~mine/>

能代名物 **志んこ**

本社・工場を移転しました

味と心で ぐあいさつ ● 上町本店 能代市上町 12-2  
TEL 0185-55-0030  
**セキト** www.sekito.jp ● パイパス店 能代市字下内崎 63-13  
TEL 0185-52-1230

地方発送のご注文はこちらへ  
TEL 0185-54-3131 ・ FAX 0185-54-2433

日本海と白神山地が出逢う宿 海の幸たっぷりのお料理とあったかい温泉で  
心と体を癒してください

と宿泊

- ・美しい景色を一人占め
- ・特別な時間をゆったりと過ごす

八森いさりび温泉

**ハタハタ館**

ホームページ: <http://www.hatahatakan.jp/>  
秋田県山本郡八峰町八森字御所の台51番地  
TEL: 0185-77-2770(代)

# 地域と共に!



**Panasonic** エルポートシロキ

八峰町八森字中浜 TEL 77-2323・FAX 77-2324

子どもに夢を! 誇れる郷土を!  
地域に活力を!

2019年

第33回雄島花火大会

8月15日打ち上げ(毎年)

雄島花火実行委員会

委員長 諸沢 英紀

白神の海と大地の夢を育む

白神八峰商工会

会長 大森 三四郎

秋田県山本郡八峰町八森字中浜41-3

TEL:0185-77-3161 FAX:77-3008



あわびの里づくりまつり

平成31年8月第一土曜日開催予定

☆参加者には2年後に「あわび」をお送りします。

おらほの館

地元野菜の直売とご当地ソフトクリーム

TEL0185-76-4649

おいしい

道のレストラン はっぽう ☎76-4455

八峰町峰浜沼田ホンコ谷地147-6 道の駅となり

いのちは次の世代へつながっている



株式会社

東日本メモリアルサービス

代表取締役 成田 竜也 (旧鷹巣町出身)

東京オフィス: 〒116-0003 荒川区南千住6-30-12-203

秋田オフィス: 〒018-3315 秋田県北秋田市宮前町11-6

電話(フリーダイヤル): 0120-565-594

和と洋が美しく調和した  
高田住宅の家

OPEN

好評公開中!!

建てたら家族が健康に!

木炭&ひば&珪藻土パワー!だからこそ、風邪のひきにくい健康住宅!

木炭&ひば&珪藻土パワー!  
家がなるなる  
百官の大王ひ  
http://www.takajuu.co.jp



信頼は時の流れを超えた絆です

高田住宅工業株式会社

ISO9001:2008取得 顧客の要求を満足させる品質を提供し、社会に貢献する

宅地建物取引業/秋田県知事(10)第1047号

本社/能代市昭南町7-1 TEL54-6518-FAX55-0750  
不動産部/能代市昭南町7-1 TEL74-5044-FAX74-5043  
峰浜本店/山本郡八峰町峰浜高野々字高野々43-1 TEL76-3493-FAX76-2186  
秋田支店/秋田市八橋大沼町15-10 TEL018-8967773-FAX018-8967774

www.takajuu.co.jp

“最も美味しいきりたんぼ鍋”に  
とことんこだわりました!!

お取り寄せ

「比内地鶏 きりたんぼ鍋セット」  
2~3人前 5,400円

- ・裁き立ての肉と丸ごと野菜
- ・毎日仕込む作り立てのスープ
- ・手造りの肉厚きりたんぼ



秋田比内地鶏生産責任者の店 【お問合せ】

本家あべや秋田店 018-825-1180

〒010-0001 秋田県秋田市中通1-4-3 エリアなかいち商業施設内1F

店頭にて「塩分感受性試験」(ご希望の方に)行っております。

「在宅薬剤管理指導」行っております。

皆川薬局

秋田県糖尿病療養指導士

薬剤師 皆川鉄治・山脇一輝・北林真実

八峰町峰浜沢目駅前 TEL.76-2052・FAX.76-2199

営業時間 8:00~18:00 / 休業日 日曜日・祝祭日

白神山地から湧き出る天然水と、地元農家の青大豆のみを使用



究極の美味 グリーン豆腐

従来の豆腐より栄養価が高く  
ほんのり緑色で甘味があり、こくが深く  
美味です。

◇◇◇◇松岡食品 おかげさまで創業69年を迎えました◇◇◇◇

〒018-2664 山本郡八峰町八森字古屋敷43-3

松岡 清悦 ・ 松岡 清也

TEL 0185-77-2024 FAX 0185-77-3646

E-mail : info@matsuoka-foods.com



◆◆和洋菓子舗◆◆

八峰町のおみやげに



カステラドーナツ



チーズブッセ

美味しいお菓子の店

高峰堂

八峰町峰浜崎字豊後長根145 TEL 0185-76-2041

営業時間 7:00~19:30 不定休

あふれる緑、大地と共に輝く未来



秋田やまもと農業協同組合

本店

〒018-2104秋田県山本郡三種町鹿渡字町後270

TEL : 0185-87-4600 (代) FAX : 0185-87-4200

代表理事組合長 米森 萬壽美

八峰支店 〒018-2503 秋田県山本郡八峰町峰浜崎字豊後長根65-1 TEL:0185-76-3151(代) FAX:0185-76-3959



0185-77-2255



秋田県山本郡八峰町八森字横間 156 番地先

秋田県漁業協同組合  
北部総括支所

# 第10回八峰町関東ふるさと会総会・懇親会案内

- ★開催日:平成30年11月18日(日)
- ★会場:アルカディア市ヶ谷
- ★受付:11時00分～
- ★総会:12時00分～12時30分
- ★懇親会:12時30分～15時30分
- ★懇親会費:6,000円(学生:3,000円、小学生以下:無料)
- ★年会費:1,000円
- ★会場へのアクセス

地下鉄有楽町線・南北線 市ヶ谷駅 1またはA1出口  
 地下鉄新宿線 市ヶ谷駅 A1またはA4出口  
 JR中央・総武線(各駅停車) 市ヶ谷駅  
 ※上記出口から徒歩約2分



## 特別ゲスト:石川郷土芸能保存会 (代表:北川 宏悦)



「駒踊り」「奴踊り」「囃子方」などで構成される石川駒踊りは、400年を超える歴史があるとされています。同保存会は伝統を守り、伝えていくため、若者が中心となって町内外で踊りを披露するとともに、小学生など後継者の育成にも力を入れています。力強い駒踊り、しなやかな奴踊り、賑やかな囃子方で関東ふるさと会10周年を盛り上げます。

## 特別ゲスト:茂浦民謡同好会 (代表:日沼 和義)



八森茂浦地区の住民約30名が活動する茂浦民謡同好会は、「笑いで健康長寿をお手伝い」をモットーに、見ている人に笑顔届けたいと、昭和48年から活動しています。毎年、町内会や地域の敬老会で通り踊りを披露し、住民の方からとても喜ばれています。「秋田音頭」「八木節」などに合わせた踊りで、関東ふるさと会10周年に花を添えます。

### 編集後記

八峰町はつくづく特異な地域だと思う。白神山地の麓で海山の特産物が豊富にとれ、それらを糧に育った粒ぞろいの多くの人々が各地でも活躍している。毎号の寄稿でその実感が強い。近年はアワビ・シイタケの事業、小中の教育に注力し、特に教育の成果が全国的に高評価なことは我が事のように嬉しい。ただ寂しいのは、本誌名でもある「はたはた」が昨年不漁だったことだ。「はたはた」は町の象徴といっても大げさではない。町と出身者の元気のために、「はたはた」が大挙して帰郷できる海の環境整備も期待したい。(須藤)

### 八峰町関東ふるさと会・役員一覧

- 会長:神馬 信一
- 副会長:麻木 固磨、内山 由子、北郷 洋子、戸田 真里
- 幹事長:成田 勘一
- 副幹事長:芹田 忍、船越 鉄美
- 幹事:飯田 良子、大久保 澄子、黒浜 茂子、白木 仁、須藤 正喜、丹波 テツ子、塚本 薫、塚本 康子、本多 義春、三浦 博、吉江 后子
- 監査:菊地 弘美、鈴木 輝志郎

### 八峰町関東ふるさと会事務局

〒184-0001  
 東京都小金井市関野町1-3-35 成田 勘一方  
 TEL/FAX 042-383-0278

- ◆発行:八峰町関東ふるさと会
- ◆発行責任者:神馬 信一
- ◆編集委員:須藤 正喜、飯田 良子、白木 仁、芹田 忍、成田 勘一